

行事報告

Report of events

令和6年度テクノフェスタ

テクノフェスタ実行委員会 大島 律子、秋元 菜摘、金 鎮赫、大森 隆行

2024年11月9日(土)・10日(日)の2日間、毎年恒例の「テクノフェスタin浜松」が開催されました。両日とも寒く雨が降った時間帯もありましたが、昨年度を上回るのべ9000名以上の方々にご来場いただきました。学生組織による「静大祭」や情報学部主催の「高校生探究・情報コンテスト」「情報学部公開講座」なども同時開催されたことから、とても賑やかな二日間となりました。

「Sズキ NHK「魔改造の夜」出場マシンの展示」や「カフェ・インフォーマティクス」「ドローンを飛ばしてみよう!」ほか情報学部の研究室展示やおもしろ実験はいずれも大変好評で、来場者の方々の楽しく過ごされている様子があちこちで見られました。中でもプログラミングをしてお掃除ロボットを動かす

「上手にお掃除できるかな?」(遠山研究室)では、地域に住むブラジル人の児童・生徒や保護者の方々が実験に参加してくださり、交流の機会が得られたことも大きな収穫でした(写真)。

今後も引き続き情報学部の魅力発信と、地域の方々をはじめとした来場者の皆さんとの交流をより活発にしていくことができるよう、様々な企画を考えていきたいと考えております。来年も皆様のご来場を心よりお待ちしております。



写真撮影: 安富勇希先生(大学教育センター)

情報学部ホームカミングデー 2024

同窓会ワーキンググループ 石川 翔吾、金 明美、後藤 謙太郎

2024年11月10日(日)に情報学部ホームカミングデーを開催しました。本年度は、卒業生のキャリア紹介、工業会の活動紹介、学生の活動紹介、情報学部の近況紹介の話題提供による学びの場と、珈琲パーティー形式の参加者同士が交流を深められる場を提供しました。60名以上が参加し、大きなトラブルもなく3時間のプログラムを実施することができました。参加者からは、発表の内容が充実しており非常に有益であったこと、多様な参加者との交流についてもポジティブな意見を多くいただきました。参加していた学生もとても多くの刺激を受けたようです。貴重な話を提供してくれた皆さまに改めて感謝申し上げます。

来年で情報学部は30周年を迎えます。情報学部の強固なネットワークを活かして、さらに学部を発展させるために、引き続き、皆さまからのご支援を賜われますと幸いです。来年も元気な皆さまにお会いできることを楽しみにしています。



交流の様子



参加者の集合写真

研究推進

Research Promotion

Faculty Research Administration(FRA)への誘い(いざない)

情報学研究推進室 西垣 正勝

「三人寄れば文殊の知恵」という言葉が表すように、私達人間は、皆で力を合わせることの素晴らしさを遙か昔から知っています。大学も「境界領域研究」、「学際領域研究」、「産官学共同研究」を通じて「T型人才」、「Π型人才」の輩出をミッションとしてきました。近年では、ほとんどの大学に「University Research Administration(URA)」という組織が設置され、学内の研究者(教員)と研究者(教員)の縁結びを行う機能を担っています。

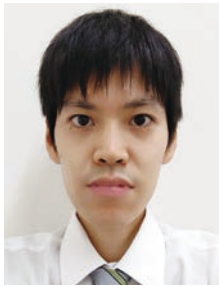
しかし、日本の国立大学の多くが総合大学であり、静岡大学もその教員数は500人を超えています。大学にURAを1つ作るだけでは足りませんよね。そこで情報学部では、学部単位でのURA、すなわち、Faculty Research Administration(FRA)の活動を2022年度から始めています。情報学部の教員は約70名であり、FRA組織が全教員の顔と研究内容を把握して、教員どうしの良縁を結ぶ手助けをすることが可能な人数で

す。また、文工融合を体現している情報学部は、FRAの適用に適した学部だと言えます。分野の異なる教員どうしが連携するほど、「三人寄れば文殊の知恵」の効果が高まるわけですが、「情報学」という冠の下に文系から工学系まで多彩な先生方が在籍している情報学部は、(総合「大学」ならぬ)総合「学部」とも呼べる、連携効果のポテンシャルが高い研究教育機関であるからです。

とは言え、まだまだ課題は山積みです。教員が多岐に渡るということは、研究の対象も教員によって千差万別だということを意味します。「連携効果のポテンシャルが高い」というメリットは、「放っておいても混ざりにくい」というデメリットの裏返しであるとも言えるでしょう。また、私達人間は十人十色ですので、教員と教員の関係の作られ方もケースバイケースになります。すなわち、縁結びには「決まった形」が存在しないのです。そのような中で、情報学研究推進室では、教員間の良縁を結ぶ方法を一歩ずつ手探りで探す努力を継続しています。

「人の知性」をめぐる冒険

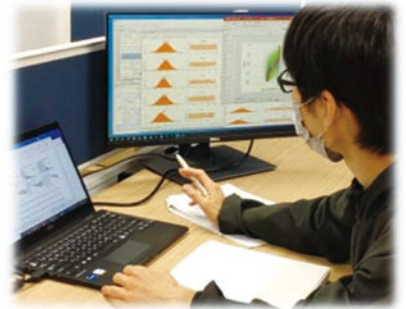
行動情報学科 白砂 大



2024年10月に情報学部行動情報学科に着任いたしました、白砂大(しらすなまさる)と申します。専門は認知科学と呼ばれる分野です。認知科学とは、大雑把に言えば、人を「情報処理を行う主体」とであると捉えて、人の知覚・判断・行動の背後にある認知基盤を実験やシミュレーションなどを通して探求する学問です。

人は、人工知能 (artificial intelligence; AI) と比べると、計算能力や記憶容量に劣っており、扱えるデータ量が非常に少ないはずですが、にもかかわらず、人は非常に正確な、ある

いは創造的な判断を行うことができます。私はそれを、人ならではの優れた思考＝「人の知性 (human intelligence)」だと考えています。人の知性にはどのような特徴やメカニズムが潜んでいるのか。その理解を通して、より人らしいAIの実現や、人とAIとのよりよい協働などに貢献できればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



人を支援するための画像認識を目指して

情報科学科 新村 文郷



2024年9月に助教として着任した新村文郷と申します。専門は画像認識・パターン認識で、人物の画像や映像を解析して人物属性を認識する研究を行っています。画像や映像から人物の性質や状態を把握することは、自動車の安全支援をはじめとしたさまざまな応用につながります。これまでの研究では画像から歩行者の向きや歩きスマホのような危険な行動の検出、それらを利用した自動車運転者の行動の予測などに取り組んできました。近年は機械学習（特に深層学習）によ

る画像認識の発展が著しく、非常に活発に研究が行われている分野です。今後、画像認識で実現できることは益々増えていくことでしょう。私も幅広い分野への応用を見据えて、人を支援する画像認識技術の研究・発展に取り組んでいきたいと考えています。静岡大学の先生方や学生の皆さんと研究に取り組むことを楽しみにしております。



静岡大学で実現できた3つの交流

行動情報学科 遠藤 正之



私は、32年半の銀行での勤務の後、2015年10月に静岡大学情報学部に着任し、行動情報学科で9年半勤務しました。社会人生活の最後に素晴らしい交流や経験をさせていただき、とても幸せに感じております。交流経験の第一は、金融IT関連、第二は学内、第三に地域社会に関してです。第一の金融ITは、研究テーマでもありますが、ちょう

どFinTechと呼ばれるイノベーションの時期に当たり、様々な金融人と交流して刺激を受けながら、研究にも繋げることができました。第二の学内では、教職員の皆様や学生諸君から、教育研究や運営の場で、多くの新たなアイデアや工夫を学ばせていただきました。第三の地域社会に関しては、スタートアップウィークエンドという、コミュニティ活動の運営に参加することで、地域の起業家や企業人と交流することができました。このような素晴らしい機会をいただいた静岡大学と皆様に深く感謝致します。

研究紹介

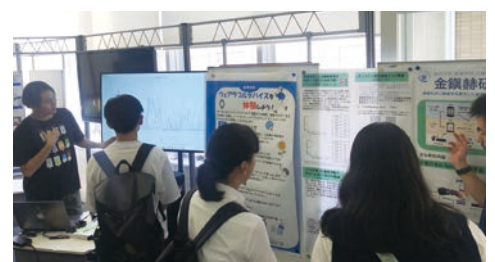
Introduction to research

健康管理をサポートする情報学的アプローチ

行動情報学科 金 鎮赫

我々は、病気を未然に防ぐ健康管理をサポートする研究を行っています。普段の日常生活をモニタリングし、その中から健康に関連する要因を探り、健康維持のための提案をします。具体的には、最新のウェアラブルデバイスを用いて、個々人の睡眠や活動量、心拍変動、精神的ストレスなどを実時間でモニタリングし、即時でユーザーに必要な情報をフィードバックします。このフィードバックは、個々人の健康レベルに合わせて最も効果的なタイミングを狙って送信するように設計されており、疾病予防の健康管理を効率よくサ

ポートします。普段の生活から負担のない形で健康関連情報を抽出し、ユーザーが実践しやすい個別健康管理サービスを提供していきます。



夏季オープンキャンパスにてウェアラブルデバイスの体験および研究室紹介を行う様子

大学生活での学びと経験

情報科学科 廣部 敬太



大学生活を振り返ると、一貫して大切にしてきたのは「とりあえずやってみる」という姿勢でした。分からないながらも、まずはできそうなことから始めることで少しずつ前に進むことができ、その積み重ねが自分の成長につながったと実感しています。大学4年の今年はXRを活用した人の認知に関する研究に本格的に取り組みました。初めは研究の方向性をつか

むために、人の認知に関する基礎的な知識を学ぶことから手をつけ、そこから徐々に具体的な技術を使って設計や実装を行いました。その結果、研究室の先生方のご指導と支援を受けながら研究成果をまとめ、2つの学会で発表することができました。発表では、多くの質問やフィードバックをいただき、研究に対する新しい視点や課題に気づくことができ、より一層研究の面白さを感じることができました。やらない後悔より、やって大成功の方が良いので、これからも「とりあえずやってみる」を続けたいと思います。

新しい自分の発見

行動情報学科 吉岡 大地

私はもともと活発的な方ではなく、どちらかというと面倒なことからは逃げて生きていたいタイプの人間です。ですが、一度きりの人生でやりたいことをせすに終えるのはもったいない。「やるかやらないかで迷ったらとりあえずやってみる」を心に決めて大学生活を送っていました。その中でも一番自分を変えることのできた経験は、休学して行ったオーストラリアへのワーキングホリデーです。最初の1週間泊まるホテル以外は何も決まっていない状態で異国に1人で渡航し、住む家やアルバイト探しなど必死に行いました。日本では必要最低限の人としか話さずに生きている私ですが、オーストラリアでは拙い英語を振る舞い、少しずつ人脈を広げていき、日本では経験できない刺激的な毎日を送ることが出来ました。そこで得た積極性は帰国後も就活などで活かすこと

ができ、私の将来へと繋がる貴重な1年になったと実感しています。大学卒業後も、新しい自分を追い求めて変化を恐れない大人へとなっていきたいと思っています。



大学生活と天竜との出会い

情報社会学科 中村 優里

大学生活を振り返ると、人生で最も豊かな経験をした4年間だったと実感しています。部活は探検部に所属し、これまでに50座以上の山を登りました。きっと一生涯の趣味になるでしょう。そんな自然が大好きな自分にとってかけがえのない場所となった地域があります。それは、浜松市北部に位置する「天竜」です。出会いは3年次のフィールドリサーチの授業でした。当初は半年間の現地調査の予定でしたが、天竜の美しい自然、温かい人々、そして郷土愛に魅了され、卒業研究では天竜区春野町の現地調査を軸に研究を行いました。卒業後、静岡を離れることになりましたが、天竜には必ず毎年遊びに行く予定

です。大学生活を通して、生涯大切にしたいものに出会ったことを幸せに思います。ぜひ、みなさんも天竜を訪れてみてください。



貴重な経験と人のつながり

総合科学技術研究科情報学専攻 神谷 和志

私の学生生活の思い出は、軽音楽愛好会で過ごした日々です。さまざまなバンドを組み、たくさんのライブを経験しました。最初の緊張も、気づけば楽しさへと変わり、最近は人々を楽しませたいという気持ちで演奏しています。演奏技術だけでなく、心の成長を感じられた貴重な時間でした。

また、学生時代ならではの経験も数多くありました。飲み会での口喧嘩や円陣、自宅でのタコバなど、社会に出たらもう経験できないようなことばかりです。人付き合いが得意ではない私にとって、このサークルで「友達」と呼べる人たちに出会えたことは、何よりの財産です。軽音楽愛好会には、卒業後も会いたいと思える人がたくさんいます。次に会う時には、バカな話で笑い合えるのか、それとも結婚や体調の話をするようになるのか、そんな未来を想像しています。これから社会に出て新しい生活を始める中で、しばらくはそんな瞬間を楽しむにしながら過ごすのだと思います。



情報学部キャリア支援室 椿 志保里

2024年度も情報学部と総合科学技術研究科情報学専攻では共に高い就職率を維持しています。2025年1月31日現在、表のように学部では3学科平均で99.3%、研

究科では97.3%の内定率となっています。引き続き、全員が希望の進路に進めるように支援しています。

学科・研究科	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	大学院進学者数	内定率	進学率
情報学部	情報科学科	97	40	56	100.0%	57.7%
	情報社会学科	71	60	59	98.3%	8.5%
	行動情報学科	78	40	34	100.0%	43.6%
	計	246	140	96	99.3%	39.0%
総合科学技術研究科情報学専攻	79	74	72	2	97.3%	2.5%

2022～2024 年度学部・研究科卒業生の主な就職先

情報科学科	情報社会学科	行動情報学科	総合科学技術研究科情報学専攻
アビームシステムズ	アビームシステムズ	NECソリューションイノベータ	NTTドコモ
NECソリューションイノベータ	伊藤忠テクノソリューションズ	ジェイアール東海情報システム	KDDI
キャノンITソリューションズ	NTT データ・アイ	Sky	サイバーエージェント
鈴与システムテクノロジー	中電シーティーアイ	デンソーテクノ	ソフトバンク
ソフトバンク	東邦ガス情報システム	電通総研	チームラボ
トヨタシステムズ	トヨタシステムズ	日鉄ソリューションズ	西日本電信電話
日立システムズ	三菱電機ソフトウェア	日本ヒューレット・パッカード	ヤフー
ビズリーチ	ヤマハモーターソリューション	丸紅ITソリューションズ	LINE
富士ソフト	スズキ	河合楽器製作所	楽天グループ
freee	ニプロ	セイコーエプソン	リクルート
スズキ	遠州鉄道	日本電気	京セラ
SUBARU	TOKAI ホールディングス	浜松ホトニクス	デンソー
日本電気	野村総合研究所	村田製作所	TOPPAN
パナソニックシステムネットワークス開発研究所	富士山静岡空港	矢崎総業	トヨタ自動車
三菱電機	東北新社	中部電力	豊田自動織機
ヤマハ発動機	フジクリエイティブコーポレーション	日本総合研究所	日立製作所
ローランドディー・ジー	東京海上日動火災保険	マイナビ	パナソニック
メイテック	静岡銀行	静岡銀行	富士通
中日新聞社	静岡県警察	清水銀行	ヤマハ
浜松市役所	静岡県庁	浜松いわた信用金庫	共同通信社
山梨県庁	名古屋市役所	総務省	アスクル
山善	ニトリ	松阪市役所	ファーストリテイリング

ソフトウェア・通信、メーカー、サービス・インフラ、マスコミ、金融、官公庁など幅広い分野に就職しています。それぞれの学科のカリキュラムで育んだ知識や経験を活かし、就職活動での強みとしています。情報学部では、年2回の進路ガイダンス等に加え、学生に対してきめ細やかな面接指導等を行っています。コロナ禍を経て、オンラインで採用活動を行う企業が多い状況が続いております。学生が活動を行う際に活用しやすいように、なるべくオンラインで情報を閲覧できるようにしております。また、採用関連の企業情報や、卒業生の就職活動体験情報を、就職資料室(i-job)で提供しています。



就職資料室(i-job)の様子

学生の表彰

学長表彰

成績優秀者

平田 夏凜

業績優秀者

加瀬川 智皓

学部長表彰

成績優秀者

有賀 千夏

専攻長表彰

成績優秀者

雨宮 正弥

業績優秀者

青木 健悟

松村 圭貴(修了生)

学位記受領代表

平田 夏凜

成績優秀者

(半期分授業料免除対象者)

遠藤 木里

(3年生対象前期分)

有賀 千夏

(4年生対象後期分)

雨宮 正弥・村松 俊平

(修士2年生対象後期分)

2025 年度 行事予定表 (2月末時点)

2025年

4月4日 入学式(静岡グランシップ)
 4月7日 ガイダンス(～ 4月10日)
 ※奨学金説明会まで含んだ日程
 4月11日 前期授業開始
 5月26日 全学一斉地震防災訓練
 7月25日 前期試験期間(～ 7月31日)
 7月31日 TOEIC試験
 8月上旬 夏季オープンキャンパス
 9月16日 集中講義(～ 9月30日)
 10月1日 後期授業開始
 11月8日 静大祭・テクノフェスタ(浜松)(～ 9日)

11月8日 保護者懇談会・個別面談(予定)
 12月23日 集中講義(～ 12月27日)
 12月27日 冬季休業(～ 1月3日)

2026年

1月5日 授業再開
 1月28日 後期試験期間(～ 2月3日)
 3月17日 学位記授与式(浜松)

お問い合わせ

〒432-8011 浜松市中央区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
 TEL:053-478-1510・1511 FAX:053-471-0249
 学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp